



育てよう魅力の花

優良賞受賞おめでとう!!

毎年開催されている「わたしの主張釜石地区大会」が、8月28日(金)に大槌町城山公園体育館で開かれました。この大会には、釜石市と大槌町の7校から中学生7人が出場しました。大槌町からは、吉里吉里学園9年生の越田久美子さんと大槌学園9年生の藤原橙矢さんが出場しました。越田さんは、祖母や母親の思いが自分の生きる力に大きな影響を与えたことを会場に訴え、見事優良賞に輝きました。藤原さんは、地域と動物とのかかわりから自分の考えるこれからの産業と大槌について堂々と発表しました(次号掲載予定)。

「私の生きる道」

吉里吉里学園9年 越田久美子

今の日本は、「新型コロナウイルス感染の恐怖」「地震や豪雨による災害の恐怖」など、いつ自分達に降りかかってくるのか分からない状況にあります。

そして私の住む「吉里吉里」は少子高齢化社会の象徴のような町です。このように世の中は未来に夢を持っていないような状況にあります。しかし、私は祖母と母の姿を見て、吉里吉里の町で地域と共に生きていこうと強く思っています。

皆さんは、「墓じまい」という言葉を知っていますか。墓じまいとは、お墓を守る人がいないという理由でお墓を撤去するという事です。吉里吉里の吉祥寺の高橋和尚さんからお話を伺うと、吉里吉里のお寺にも1年で15件ほど相談があると聞きました。

私は小さい頃から祖母に「この家の墓守ってってね」「この家継いでってね」と子守り歌のように言われて来ました。

私の家は私と母と祖母の三人家族です。そのため祖母は大人になってから急に後継ぎの話をして受入れがたいだろうと考え、小さい頃から話してきたそうです。祖母はよく、「私たちの命は先祖がいたからこそあるんだよ。先祖が代々残してきたものがあるから今の生活が出来るのだよ」と話します。

私の母は四人兄弟の長女で私の叔父となる弟がいました。しかし、交通事故で二十才の若さで亡くなりました。その時から、東京で看護師をしていた母は「いつか実家に戻り、私が家を継いでいかなければならない」と思い、吉里吉里に帰ってきたそうです。

この祖母の思いと母の話から、「墓を守っていこう」という気持ちが芽生えたことは確かです。そして地域の人と地域を守ろうと思わせたのは母でした。

東日本大震災の時、私は五才で家族と避難所にいま

した。その時、「この中に看護師さんはいませんか」の声に手を挙げていた母がいました。この時から、私と母は離れて生活したことを覚えています。



道路が寸断された中、避難所からの要請があり、三か所を毎日行き来して、地域の方々と戦い抜いたそうです。

今、新型コロナウイルス感染の恐怖が私達を襲っています。ニュースでは、医療従事者家族が会えない状況や過酷な労働の中頑張っている姿が伝えられています。

母は「他人事じゃないからね。私が看護師という職業だから家に帰れなくなることも覚悟しておきなさい」と言います。この言葉に母が仕事をする事の「覚悟」、地域の命を守るため身をなげうってでも貢献しようとする姿にたくましさを感じました。

吉里吉里のような小さい町では、若者が地元に戻ってこないというのが課題になっています。地元を離れ、学業や社会性を学び、数々の経験と色々な出会いをすることはとても貴重なことだと思います。

それと同じくらい、生まれ育った地で、地域の人と手を取り合い、地域のために生きていくことも素敵なことだと思います。災害があれば、みんなで力を合わせ地域の命を守る。

若い人たちが、故郷を懐かしく思った時、いつでも帰って来られるよう、地域の行事を絶やさず守っていく。そういう生き方を私はしていきたいのです。私の考えに共感する同世代の人は少ないでしょう。でも私は、必ず吉里吉里に帰ってきて、祖母のように先祖を敬いながら墓を守り、母のように地域のためにできる限り、力を尽くしていきたいと思えます。それが私の生きる道です。

大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民のみなさまにお伝えします!



大槌高校
ホームページでも
行事の様子を
発信しています!

地域に飛び出す大高生たちの様子をお届けします!

新型コロナウイルスの影響で、感染症対策を行いながら例年とは少し違った形で過ごす学校生活も半年が過ぎました。復興研究会やま研究会、マイプロジェクトなどの校外での活動もたくさん行われています。10月号では、地域に飛び出して積極的に活動を行う生徒たちの様子をお届けします!

おしゃっち食堂を一緒に運営してます!



昨年度から毎月開催されている「おしゃっち食堂」の運営に生徒たちも参加しています。新型コロナの影響で、9月2日(水)に半年ぶりの食堂再開となりました。

生徒たちは受付で検温などのお手伝いをし、来てくださる方を笑顔で出迎えていました。



2年 中村さん・浅田さん

今後は食事だけでなく、多世代交流できるような楽しい企画も考えています。コロナに負けないように続けていきたいです。ぜひ皆さん来てください!

大槌町自主防災連絡会議に出席しました!



8月26日(水)に行われた「大槌町自主防災連絡会議」に、防災分野に興味がある2,3年生4名が参加しました。町内の災害対策に関して、各自治会長を通して地区の取り組みや今後検討していくべき課題などを詳しく知る機会となりました。



2年 植田さん・松田さん

大人たちがしっかりと町の防災に対して意見を言っていたのが刺激的でした。今後も町の防災活動に役に立てることを考え、取り組んでいきたいと思えます!

サーモン大発表会のお手伝いをしました!



7月に開催された「サーモン大発表会」では、2年生約10名が運営ボランティアとして参加しました。受付や販売、餅まきなど様々なブースを担当しました。生徒たちはイベントで振る舞われたサーモンを味わうこともでき、「大槌町の魅力を感じることができた。このようなイベントに若者がもっと参加するように呼びかけていきたい。」といった感想を述べていました。

町内の子供たちとふれあいました!



復興研究会のキッズステーション班では、長期休み期間に町内の子供たちとのふれあう活動をしています。今年は、「ぼこあぼこ」「夏休み子ども学びの場」「大槌町こども教育センター OLAI」の3施設にお邪魔して、活動を行いました。小学生の宿題の手伝いをしたり、低学年の児童の遊び相手をしたりと様々な活動を行いました。